

## 〔報告要旨〕

**報告1 「歴史的思考力とその評価方法について」** 高大連携歴史教育研究会第1部会歴史的思考力ワーキンググループでは、教科書モデルプランの作成を通して「歴史的思考力」をどのように育成できるか議論を深めている。この成果と課題、今後の展望を報告したい。また、歴史総合を見据えて世界史と日本史を関連させる教科書記述について参加者諸賢の具体的・積極的な意見を期待する。

**報告2 「世界史B・日本史B用語選定案について」** 日本学術会議の歴史用語厳選の提言を受けた高等学校歴史教育研究会のアンケートは、用語限定は2000語前後がふさわしいとする。高大連携第1部会で取り組んでいる用語選定案の作成過程や、重要用語案を提案した東南アジア学会の試みを紹介したい。

**報告3 「社会研究 (Social Studies) のための歴史教育」** 学校における歴史教育の意義は、「社会研究」を通じた市民性育成教育にあると考える。こうした理念に依り、歴史カリキュラム及び授業構成は、教科論と目標・内容・方法を貫く授業構成論に基づいて検討していくことが重要であることを論じたい。

**報告4 「高校日本史の授業をアクティブ・ラーニングにできるのか」** 授業にアクティブ・ラーニングを取り入れると言われた現場の教員は、授業方法や知識の習得、評価について悩むと思われる。報告者による討論を取り入れた高校日本史の授業実践例を示して、アクティブ・ラーニングについて提言したい。

**報告5 「ジェンダー視点のある歴史教育とは何か」** 歴史教育にジェンダー視点を取り入れること、ジェンダー史を充実させることが必要だといわれるが、いったい何をどう教えればいいのか？ アクティブ・ラーニングも取り入れながら、どんなジェンダー史を如何に教えるか、考えたい。

## 報告者等紹介

- **小島孝太** (こじまこうた、愛知県立犬山高校教諭、世界史教育) 高大連携第1部会歴史的思考力WG 取りまとめ
- **中村 薫** (なかむらかおる、大阪大学非常勤講師、社会科教育法) 高大連携第1部会歴史用語WG 取りまとめ  
[主要著作等] 『世界史用語増加の歴史的背景と問題点』『歴史教育史研究』13、2015。『『世界史』の危機をどう克服すべきか』帝国書院『世界史のしおり』2016年度3学期号。
- **梅津正美** (うめづまさみ、鳴門教育大学副学長・学校教育研究科教授、社会科教育学(歴史教育論))  
[主要著作等] 『歴史教育内容改革研究－社会史教授の論理と展開』風間書房、2006。『教育実践学としての社会科授業研究の探求』編著、風間書房、2015。
- **川島啓一** (かわしまけいいち、同志社高等学校教諭、世界史教育)  
[主要著作等] ①『アクティブラーニングと歴史教育－高校世界史の教育実践から』『高大連携歴史教育研究会会報』2、2016。「史料と「問い」を充実させた教材を自作し「歴史的思考力」を高めるAL型授業を実践」『Guideline』(河合塾)2015年9月号。
- **渡辺哲郎** (わたなべてつろう、日本大学習志野高等学校教諭、日本史教育)  
[主要著作等] 「身近な地域から学ぶ第一次世界大戦－習志野俘虜収容所を教材に」『歴史地理教育』821、2014。「大正デモクラシー期における人々の政治参加を考える授業」『歴史地理教育』852、2016。
- **小浜正子** (こはままさこ、日本大学文理学部教授、中国近現代史・ジェンダー史)  
[主要著作等] 『歴史を読み替える－ジェンダーから見た世界史』共編、大月書店、2014。『現代中国のジェンダー・ポリティクス－格差・性売買・慰安婦』共編、勉誠出版、2016。
- **赤間幸人** (あかまゆきひと、北海道教育庁日高教育局長、世界史教育・教育課程)  
[主要著作等] 「学校・行政におけるアクティブ・ラーニング推進」『月刊高校教育』2015年11月号。「北海道におけるアクティブ・ラーニング推進の取組」『アクティブ・ラーナーを育てる高校』学事出版、2016。
- **小野雅章** (おのまさあき、日本大学文理学部教授、日本教育史)  
[主要著作等] 『御真影と学校－「奉護」の変容』東大出版会、2014。
- **古川隆久** (ふるかわたかひさ、日本大学文理学部教授、日本近現代史)  
[主要著作等] 『昭和天皇』中央公論新社、2011。『昭和史』筑摩書房、2016。